

# ホンダラケ緊急討論会 書と共に旅に出よ。

- M「旅と聞いて思い出すのは“パスポートサイズ”。昔8ミリビデオカメラのCMで言った。パスポートくらい小さいビデオカメラって意味で」  
 F「パスポートサイズ……大きくないですか？」  
 M「時代の流れを感じるでしょ♪」  
 F「そんなわけで今回のテーマは旅です。私は年に最低一回必ず海外へ行くという謎の試練を自らに課していますが、お二方は旅など嗜まれますか？」  
 A「私は国内を中心に……名所や、きれいな景色を見に行きます」  
 M「あとはお酒よね」  
 F「たしかに、Aさんといえばお酒の印象がありますね」  
 A「やめてくださいよ～、仮にも中高生がターゲットの冊子なんですから（汗）でも、たしかに温泉と日本酒は好きで、それを目的に旅程を組んだりしますね」  
 F「Mさんは旅行の目的って主にどんなことですか？」  
 M「私はね、犬と一緒に行くのが前提だから、ペット宿泊OKのところを探すの。あとはねー、なんか、普段からよく見る有名な地名とか行きたくなっちゃう」  
 A「た、たとえば？」  
 M「熱海とか……品川とか？」  
 F「品川。……品川っ!？」  
 M「テレビでよく見るじゃん品川！ そういうところに行きたくなるっていうたとえばだよ！ えっ、私だけ？ ねえ、私だけ？」  
 F「(収集つかなくなってきたな…) なにか中高生に伝えたい事とかありますか？」  
 M & A「……。」(あんなにやかましかったのにいきなり黙り込む2人)  
 F「黙らないで！ 絞り出して！」  
 A「か、かわいい子には旅をさせろ……とか」  
 F「Aさんそれヤングじゃなくて親へのメッセージ…」  
 A「ああっホントだ！ で、でも旅に出ることはいいことだと思います！ 大人になると、旅をする時間が無いですから。学生のうちに旅して頂きたいです」  
 M「その通り。旅に出て、自分がどれだけちっぽけな世界にいるか思い知るのはいいことです。あとね、ホントにやりたいことがあるなら、他人がどう思うかなど気にする心は捨ててしまえ！ と言いたい」  
 A「ほら、『書を捨てよ、町へ出よう』っていう作品がありましたよね！ たしか！」

F「うん、仮にも図書館員の我々が言っているいい台詞じゃないですけどね……だめだ、笑いすぎてお腹痛い」

M「えー、ヤングのみなさん、書と共に旅に出てください(笑)」

A「あ、あう……」

←ブログも更新中！ <http://sanda-city-lib-ya.sblo.jp/>



# ホンダラケ

H30.2.01.

今回のテーマは「旅・もしくは旅行記」  
 旅の準備は苦手です。たかだか一泊の国内旅行にどうしてスーツケースがぱんちくりんなのか。誰か教えて。

## 出発だよ！40秒で支度しな！！

## 世界中で迷子になって

角田光代：著 小学館 2013年刊 Eカク



この方の旅行エピソードはとってもデンジャラス。私だったらとくに「もうあの国にはいかない！」とか言い出しそうな体験(例：トイレが壊れている長距離バスに乗る)をしても、懐かしい旅の思い出としてこうやってエッセイに書けるのは、旅のエキスパートと言えるでしょう。なぜか本人は「旅慣れていない」と言っておられますが。そういえば、同じ国でも行く年齢によって楽しみ方も変わってくるそう。自分は何が好きで何が気になるのか。そんなことがわかれば、世界はいつでも出迎えてくれるってことです。

### ホンダラケとは

本誌は、読者の身も心も「本だらけ」にしてやろうという心意気から生まれた中高生向け小冊子です。本誌に登場する本は全て三田市立図書館本館のYA(ヤングアダルト)コーナーでご覧いただけます。

2か月に1度、年6回発行予定です。

ホンダラケは皆様の投稿をお待ちしております。YAコーナーに用紙・ポストがございますので、おすすめ本や本誌の感想・要望などお寄せ下さい。

# 青春読書記

～三田学園図書委員会より愛をこめて～

## 初恋料理教室

藤野 恵美：著 2014年刊 ポプラ社 F/フジ

その料理教室は、京の町の暖かみのある路地の一角にあります。男性限定のクラスに参加している4人の男性のそれぞれの視点から、その教室での出来事や彼らを取り巻く環境について語る形となっています。年齢も出身地も外見も全く異なる4人ですが、読んでいると思わず「あるある」とうなずいてしまうエピソードや、京都が舞台ならではの日本らしい描写が数多くでてきます。昨今、日常に於ける日本らしい、と思うような機会は減りつつありますが、是非この本を読んで考えるきっかけにして頂ければと思います。

P.N. 西浩一  
(中学2年生)

古い町並みの残る街を歩くことが趣味。バス撮影も好きである。



リサイクル予備軍～なぜ君は借りてもらえないのか～

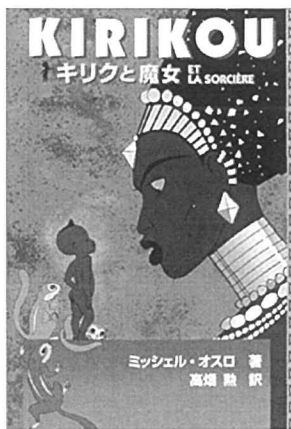
## キリクと魔女

ミッシェル・オスロ著 高畑 勲訳 徳間書店 2003年刊

このコーナーではもう珍しくないことですが、すでに品切れになっていて手に入らない本でございます…

こちらの本、訳者の名前に気づきましたか？ そう、スタジオジブリでおなじみの高畑勲さん。実はこの作品、昔フランスでアニメーション映画が公開された時に大ヒットを記録しています。映画は日本語版もあるので、興味が湧いたら見てみてください。

アフリカを舞台に、生まれてきたばかりの小さな賢い男の子キリクは、いなくなった村の男たち、攫われていく村の子どもたち、止められてしまった泉の水など村の問題に立ち向かいます。その全てに関係しているのが悪い魔女・カラバ。キリクの命を狙う魔女に、果たして小さな男の子はどう立ち向かうのでしょうか。美しい挿絵と、思わず「…ウソやろ？」と呟いてしまう驚きの結末に注目です！



953/オス

## ホンダラケポストの投稿にお答えするコーナー ⑮

皆さん！ホンダラケポストへの投稿いつもありがとうございます！ブログで時々紹介していますが、まだまだあるのでここでも紹介してしまおう！というコーナーです。

P.N.：ドラゴンラージャアア！！さん

オススメの本：「ドラゴンラージャ」

理由：小学校の図書室で読んですいすい読めてすごく面白かったから！！  
ラノベっばい！

シリーズものようですね。ファンタジーでしょうか、ゲームのような世界観で確かに読みやすそう。ペンネームからも愛（というか気合？）を感じます。



P.N.：ちびらさん

オススメの本：「戦国姫（せんごくひめ）」

理由：私は伝記が好きなのですが、戦国姫は1冊に1人 or 7人 or 9人のっています。マルイノさんの絵もすごくかわいいです。

A「この本見たことがあります。かわいいお姫様が表紙の」

M「戦国時代のお姫様のお話かしらね。人気あるの？」

A「(検索)・・・9巻までありますが全部貸出中ですよ！」

F「お、恐るべし。機会があればぜひ読んでみてください」

作：イ・ヨンド 訳：ホン・カズミ 絵：金田榮路 岩崎書店 2005年刊

YA世代のために血を吐く思いで名作を紹介するコーナー

## 『夜間飛行』 サン＝テグジュペリ著

二木麻里：訳 光文社 2010年刊

「ひとが激昂したときの顔のようだ。かすかに蒼ざめた  
だけなのに、おそろしく違う表情になる」

サン＝テグジュペリといえば『星の王子さま』が広く知られていますね。自らもパイロットだったサン＝テグジュペリは、経験を生かしてこんな作品も書いています。まだ夜間に飛行することが危険をとまなう挑戦だった時代、南米と欧州を結んで郵便を空輸する会社の、一夜の状況を書いた物語です。夜空へ飛び立つパイロット、ひたすら通信を待ち部下を厳しく律する社長、それはまさに戦いなのですが、暑苦しい感じでは全くなくとても詩的で繊細な文体で書かれています。命をかけて任務を遂行するパイロットの姿に胸を打たれます。



953/サン